

\*\*\*\*\*

2010年度 第3回 音環境運営委員会 議事録

記録:渡辺

\*\*\*\*\*

- A. 日 時 2010年9月27日(月) 17時00分~18時30分
- B. 場 所 建築学会会議室
- C. 出席者 安藤 啓、大鶴 徹、佐久間哲哉、田端 淳、土田義郎、中澤真司、羽入敏樹、濱田幸雄、平光厚雄、堀之内吉成、峯村敦雄、吉村純一、渡辺充敏(敬称略)  
欠席者 井上勝夫、岡田恭明、佐藤史明、平松友孝、宮島 徹(敬称略)
- D. 提出資料  
No.3-0 2010年度 第2回音環境運営委員会議事録(案)(堀之内)
- E. 審議事項
1. 前回議事録確認(資料No.3-0)
    - 固体音小委員会の活動報告の中で、“次回開催(8/4)に再検討し”を“8/4にWGを開催して再検討し”に修正。
    - 室内音響小委員会の活動報告の第2項を、“シンポジウム「音をめぐる設計プロセスと空間設計の可能性」として企画しており、2011年5月に開催予定。現時点でパネリスト3名の内諾を得ており、ユニバーサルデザイン関係の方を呼ぶことを検討中。”と修正し、第3項を削除。
  2. 環境工学本委員会報告(田端主査)
    - 2011年度日本建築学会大賞業績候補に木村翔先生を推薦する。
    - 文化賞業績候補の推薦依頼があった。(→審議事項)
    - 教育賞に安岡正人先生を推薦する。
    - 卒業論文等顕彰事業委員は、音環境からは羽入敏樹先生に決定した。
    - 特別研究委員会設置募集に関連して、社会に成果を還元するための組織横断的な委員会が設置できるかについて検討することになった。
    - 2011年度委員会活動計画案、予算原案の提出締切は10/29である。期間は小委員会4年、WGは2年以内であるので、4年を経過した小委員会は廃止申請をして、再度、設置申請をする必要がある。(現時点で4年経過した小委員会はない)
    - 大会の反省
      - ・ 会場が狭かった、環境工学は会場が分かれてしまった。
      - ・ 第1報で実験方法、第2報で実験結果と言うような連報について議論があった。各発表は独立すべきとして、今後規定していくことになった。学術推進委員会で検討するが、学術推進委員会が全体として規定しない場合は、環境工学本委員会で決めていく事になる。
      - ・ 質問時間の使い方について、セッションでまとめるのと、発表ごとのどちらが良いか議論して欲しいとの依頼があった。(→審議事項)
      - ・ 欠席者の代理発表は認められないのはこれまでの原則通りであるが、司会者の裁量の範疇で適切に対応して欲しいとの話しがあった。
      - ・ 研究協議会の参加者は約150名。時間が不足していた、また環境工学の成果は出ているが一般的に分かりやすい形になっていない等の意見があった。
      - ・ 研究懇談会の状況と、結論を出すまでには至らなかった、との報告があった。
    - OSはセッション名と趣旨を決めて11月22日までに事務局に提出する。音環境は前回決定した通りにOSを実施することを表明し、詳細については審議中と報告した。(→審議事項)
    - 分類、細々分類について、音環境は変更なし。
    - 2011年度の研究協議会の企画案について、関東支部が3案を提出した。その中で「これからの大都市の安全・安心と環境工学の役割」について関東支部で更に検討を進めることとなった。
    - 2011年度の研究懇談会のテーマとして、「環境工学研究の最前線と分野連携 ー自然・生態環境と人工環境の融和に向けてー」が示された。(→審議事項)
    - パネルディスカッションについて検討依頼があった。(→審議事項)
    - メールマガジンの運用ルールが変わった。催し物の計画が環境工学本委員会で承認されていれば、環境工学本委員会の担当幹事と事務局へのメール、確認のみで配信される。

- 委員の任期は1期2年、本委員会、運営委員会の任期は3期までが、また小委員会の兼任数3以内が原則であるので、理解しておいて頂きたいとの話があった。

### 3. 審議事項

- 日本建築学会文化賞への推薦候補があれば田端主査までメール等で連絡する。12/17(金)が締切。
- 大会での質問時間の使い方に関して、質疑応答の活性化等の点から、現在のセッションの最後にまとめる方法が良いだろうとの意見があった。音環境としては、発表ごとに質問時間を割り振る方法は推奨しない。
- 来年度のOSは、測定法小委員会(宮島主査)と音環境規準検討小委員会(平松主査)で検討願う。
- 研究懇談会のイメージ「環境工学研究の最前線と分野連携ー自然・生態環境と人工環境の融和に向けてー」に対して、音環境からの報告は難しいと、報告する。
- パネルディスカッションのテーマについて各位にメールして検討を願う。11/17(水)が提出締切。

## 4. 小委員会・WG 活動報告

### 固体音小委員会 (中澤主査)

- 8/4にWGを開催し、委員と学生で評価の傾向が異なる点について討議した。改めて実験は行わず、現在のデータで検討を進めることに決定した。次回は10/7開催予定。
- 9/1に第5回小委員会を開催し、A特性音圧レベルの算定方法に関連して、これまでのバングマシン、ボールに加えて、タッピングマシンについても検討した。
- 音環境規準検討小委員会からの依頼に関する対応の取り纏め作業を開始した。次回あたりで決定する予定である。

### 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会 (濱田主査)

- 8/2に開催、大会発表に向けての想定質問と回答について検討した。
- 室内発生音に関するアンケートを簡略化した版を作成すること、発生音の周波数特性についても検討を進めることを決定した。
- 新フォーマットによるアンケートを行うので、ご協力をお願いしたい。
- 次回は10/18開催予定。

### 建築音響測定法小委員会 (宮島主査、平光委員)

- 8/17に開催、次回は10/20に開催予定。
- 版のインピーダンス測定法のまとめ文書について審議し、修正したものを最終版とすることとした。
- 実音源による遮音性能測定方法の検討のため、ゼネコンを中心に使える現場を探している。
- 音環境規準検討小委員会より遮音性能のA特性評価方法の検討依頼があったことを紹介し、今後の対応を検討した。とりあえず、品確法への対応時にBCSで収集した遮音データの利用をお願いすることとした。

### 室内音響小委員会 (羽入主査)

- 7/28に開催、次回は11/17に開催予定。
- 9/6に音響指標測定WGを開催した。改訂されたISO3382について勉強、理解した後に、ベンチマークを作成する予定である。
- 10/12にスピーチプライバシーWGを開催予定。

### 音響数値解析小委員会 (佐久間主査)

- 8/18に第2回を開催、次回は10/27に開催予定。
- 現在の進捗は約60%である。年度末の3月までに仕上げるために読み合わせ時期を決めた。
- シンポジウムは、建音研と共催として3月に東京で開催予定。数値解析の実用上の設定、精度の関係について事例を示して議論をしたいと考えており、テーマ名は次回の小委員会で決める予定である。
- 大嶋先生が中心となっている若手奨励研究は今年度で終わりであるが、継続的な活動を計画しており、来年度からの活動の拠点として小委員会内にWGを設置する方向で検討している。

### 音環境規準検討小委員会 (平松主査、堀之内幹事代読)

- 第2回目の小委員会を8/4に開催。
- 遮音性能規準、設計指針の合同WGを8/30に開催。遮音性能規準、集合住宅の遮音設計指針の目次案、執筆の考え方、行程を論議した。また、遮音性能規準第一次案を討議した。
- 8/6に執筆依頼を執筆者を含む小委員会、WGの委員に配布、9/21に遮音性能規準第一次案を小委員会、WGの委員に配布した。

### 企画・広報WG (峯村主査)

- 9/2に開催、次回は11/5に開催予定。

- 研究動向調査 WG では、入力フォーマットが決まった。論文リストも整ったので、担当を決めて入力をはじめており、入力しながら改良点をピックアップしている。また、動向調査結果の継続的な運用に関しても意見が出された。
- “(仮称)住まい方マニュアル”では、誰を対象とするのが議論となり、共通する部分と対象者別に特徴的な部分の分類を行うことになった。また、建築学会から発信する情報としてどのような物が良いのが議論となり、事実を整理する、具体的な事例を示すとの方針が検討された。

#### 5. 他学会の予定

日本音響学会・建築音響研究会	10/20	キャンパスプラザ京都
	11/22	東京大学 本郷キャンパス
	12/15	神奈川大学
	1月	浜松アクトシティ、日にち未定
	3月	数値解析小委員会との共催、場所と日にちは未定
日本音響学会・騒音・振動研究会	10/15	北海道大学
	11/12	熊本大学
	12/17	京都大学

#### 6. その他

特になし

#### 7. 次回の予定

次回は、2010年11月18日(木) 17:00～ 建築会館・会議室

2010年度 音環境運営委員会予定		
第1回	2010.5.19(水)	実施
第2回	2010.7.29(木)	実施
第3回	2010.9.27(月)	実施
第4回	2010.11.18(木)	(決定)
第5回	2011.2.21(月)	